

京大人の道
COMPASS
かんちくいずみ
寒竹泉美

小説家

読者の方が恋したいなって思える、
そんな小説を書きたいですね

小さいころからの夢を貫き通して、それを実現できる人は決して多くはない。今回は、理系の道に進み、医学博士となりながらも、かねてからの夢であった小説家デビューを果たした寒竹泉美氏にお話をうかがった。
(飛燕)



小説家として ~夢を貫き通すということ~

小説家になるまで

小学生のときから本を読むのが好きだったので、読んでいるうちに自分でも小説を書くようになりました。中学時代に、書いた小説をクラス内で読んでもらっていたら「小説家になれば？」と言われて、目指してみようかと思いました。それ以来ずっと、小説家になると言いながらここまで来ましたね。

大学では臨床ではなく脳の研究をやっていました。その時は、小説家になることも研究者になることもそこまで大変じゃないと思っていたので、両方やりたと思っていました。それで大学院まで進んだんですけど、博士課程まで行ったらいきなり現実が見えてきましたね。博士号は取ったんですけど、ずっと小説家になりたいと思っていたので、研究をやめて小説家になりますと教授に伝えました。デビューが決まった時は安心して、ほっとしましたね。

苦労したこと

小説家になるまでに苦労したことは、小説を書いて、応募しては落選することを何度も繰り返したことです。自分の作品に対する自信が揺らいで、わたしはもう小説家にはなれないんじゃないかとか思うこともありました。だけど一方では、大丈夫、ちゃんと小説家デビューできる、と思う自分もいる、というような葛藤が結構つらかったです。

小説家になるまでは、本屋に並んでる本を見て、素人の立場から好き勝手言っていました。でも今度は、自分も評価される側になりますよね。そうしたら自分の小説がいかにか下手なのかかわかってきました。いざ自分の小説が本屋に並んでみると、今まで下手だなと思っていたものよりも自分の方が下手で、身の程知らずだったと思うようになりました。それが、小説家になってから苦労したことです。

良かったこと

アマチュアのころは、自分で書いたものを友達に見せるぐらいしか人に見せる機会がありませんでした。それが、デビューしてからは、知らない人も読んでおもしろかったと言ってもらえるようになりました。おもしろかったという声、デビュー前よりもたくさんもらえるようになったんですね。それが小説家デビューしてから一番良かったことです。やっぱり、おもしろかったと言われるのがなにより幸せですから。

おもしろくないという声も聞こえるようになって、へこんでしまうこともあります。でもそれは、修業しなきゃいけないと思わせてくれる存在でもあるので、厳しい意見もありがたいですね。

小説家になると伝えたときには、親からは若干反対もされたんですけど、デビューが決まったらとても喜んでくれました。これも、良かったことですね。

はみだし
すてーじ
休みでない一週間は長い……(汗)
⇒充実した毎日を送れば短くなりますよ!!

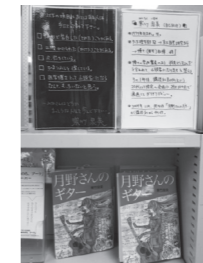
(法・2 はる)
(やる気の上がない季節ではありますが……;編)

作品について ~小説に込められた思い~

デビュー作
『月野さんのギター』

大学時代までは、純文学を書かなきゃ、というようにずっと思っていて、小難しいことばかり書いていました。ですが、この作品はちょっと書き始めたらどんどんアイデアが出るようになって、自然に書き上げることができました。直接のモデルというわけではないですが、この作品にはわたしの大学時代が詰まっています。恋愛しか書いてないし二股ばかりの話で、純文学とは全然違うしょうもない話ではあります。でも、この小説を後で友達に見せたら、おもしろかったって言われたんです。それで純文学を書かなきゃというのが吹っ切れて、自分が読んでおもしろい小説を書こうか、と思うようになりました。

恋をしている瞬間ってすごく大事だと思うんですよ。後から振り返ったらすごくしょうもないし、はたから見たらすごくどうでもいいことなんですけど、でも本人は死ぬか生きるかぐらいにとっても悩むと思います。そういう気持ちを書きたいなと思ってこの小説を書きました。今、恋をしている人もしてない人も、この本を読んでそういう気持ちを思い出してほしいなと思います。



小説『月野さんのギター』。ブックセンターでは直筆サイン本の販売も行われている。

現在の活動

STARDUSTpress webというwebサイト (<http://stardustpress.jp/pc/novel/kanchiku/index.php>)で『プローブ』という小説を連載しています。せっかく理系出身なので、理系の背景を生かした恋愛小説を書いてほしいと言われて。主人公の理系女子が芸能人と恋愛する話なんです。まだまだ連載を持てるレベルじゃないと自分では思っていますが、今書いているものが次の週には更新されるので必死になって書いています。



学生に対して ~全力で恋をしてほしい~

学生生活の思い出

九大の時は、理学部の化学科に在籍してたんですけど、その時に研究していた脳の話をもっと詳しくやりたいと思ったんですね。だけどそれは医学部でしかできなくて、医学部で修士を受け付けていた大学が京大と他に数校しかなかったんですね。高校時代から京大が好きで、京大行きたくて、京都に住みたいと思ってたので、それなら京大の大学院を目指してみようかなと思って来ました。

修士のころは結構遊んでました。ベタに鴨川でパーベキューとかしましたね。ホントは禁止されてるんですけどよね？ 医学部の構内に桜があって、桜のシーズンにはそこで陣取りしてお花見をやることもありました。イタリアンレストランでアルバイトしてたこともありました。外国人のお客さんがいっぱい来るお店だったので、おたおたしながら一生懸命接客していましたね。

京大生に一言

学生の間に、全力で恋をしてください。恋をしたら疲れますから、学生の間にできないんじゃないかな。『月野さんのギター』は大学2回生の男子を主人公にしています。2回生なら就職もまだ考えなくていいし、学校も慣れてきて、恋だけしててもいいんじゃないかなあと思って書きました。勉強もですけど、時間を自由に使える時期はあんまりないので、一生懸命恋をしてほしいと思います。

小説家を目指している読者の方もいると思います。「とにかく書いて読んでもらおうのが好き、それだけあればいい」という人だったら迷わず小説家を目指してほしいです。才能とかセンスよりも、書き続ける馬力がある人が小説家になれるし、その後も成功できるんじゃないかと思っていますね。

—ありがとうございます。

はみだし
すてーじ
暑い季節は嫌いで
⇒冬生まれなので執筆も嫌いです。

PROFILE



1979年岡山県生まれ。
九州大学理学部を卒業後、京都大学大学院医学研究科に進学。医学博士。
2009年11月『月野さんのギター』で講談社birthより作家デビュー。

(工・2 zacky)
(これって関係あるのかな;編)